

# 災害に備える

日頃の備えと冷静な行動が自分の命と家族の安全を守ります

留萌市はこれまでに昭和33年の大火をはじめ、昭和63年の留萌川氾濫による大洪水など大きな災害に見舞われてきました。また、平成5年の北海道南西沖地震、平成7年の阪神・淡路大震災では、突然の災害で多くの命と財産が失われ、改めて災害の恐ろしさを認識させられました。

市では、この度、市民の生命、身体、財産を災害から守ることを目的とした留萌市地域防災計画を全面改訂し、「より災害に強いまちづくり」を進めることとしています。

突然起こる災害から身を守るためには、一人ひとりの日頃の備えと地域の助け合いが大切です。今月は、市の災害対策と市民のみなさんに日頃から準備していただきたいことをご紹介します。

## 留萌市の防災対策

### ◎災害情報伝達

礼受町から三泊町までの海岸線や留萌川沿いの五十嵐町から河口にかけて、地震・津波・台風等の気象警報や避難勧告等の情報伝達を迅速に行うため、無線による屋外拡声器と公共施設等への個別受信機を設置しております。この防災行政無線のほか、広報車やラジオ・テレビなどを通じて災害情報や避難情報をお伝えします。



防災行政無線（屋外拡声器）

### ◎防災資機材等の備蓄

市の防災倉庫には、毛布、非常食（ご飯、乾パン）、スコップ、麻袋等の資機材を備蓄



非常食（ご飯） 防災倉庫

し、また、上水道配水場には応急給水用の給水タンク3基とポリ容器250個を用意しております。

### ◎防災気象情報システム

留萌市行政地域のピンポイントの気象情報を瞬時に把握できる気象情報システムを導入しています。これにより市街地や幌糠地区等の山間地における気象情報を的確に把握することができま

### ◎洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップは、留萌川が大雨によって増水し氾



※このほか、市や消防では毎年、各種防災訓練を実施しています。今年も防災の日の9月1日（水）午前9時から、黄金岬海浜公園駐車場付近において、留萌市防災総合訓練を実施します。

## 家庭の防災対策

### ◎避難所・経路の確認

市では災害時の避難者の安全を確保するため、避難所と避難場所を指定しています。学校や公共施設など給水、給食等の救済活動ができる建物を避難所（59カ所）に、学校グラウンドや公園など避難所に避難する際の一時的な安全を確保できる場所を避難場所（29カ所）に指定しています。避難所等は、市のホームページのほか市役所の市政情報コーナーや公共施設に備えている「くらしの便利帳」にも掲載されています。あらかじめ経路とともに確認しておきましょう。



避難所には左の写真のように標識が設置されています。

### ◎非常時持出品の用意

災害時には道路状況などにより、被災者に飲料水や食料などをすぐに供給できないことがあります。このような場合に備え、普段から上の表にあるような非常時の持出品を用意しておきましょう。

### ◎地域の防災活動

大規模な災害が発生した場合の復旧や支援体制は、行政機関だけでは十分なものとはいえません。したがって、集団避難や復旧作業、安否確認には、町内会などの自主的な活動が威力を発揮します。これを機会に町内会の自主防災組織の設置について考えてみましょう。

## ◎非常時持ち出し品リスト

品		目		
	懐中電灯		飲料水	
	携帯ラジオ		非常食	
	救急セット		衣類	
	貴重品		その他ライター、ナイフ、缶切り、ティッシュなど。予備の電池は、多めに用意しておきましょう。	

## INTERVIEW

防災担当の杉本さんに伺いました。



▼日頃、気を付けなければならぬことは？  
風水害や地震など、災害は突然襲ってきます。まずは自分の命は自分で守る。家族の安全は家族みんなを守る。ということが大切です。このため、災害時にどのような行動したらいいかを家族で話し合っておくことが大切です。

▼地域でできることは？  
阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊や火災で多くの命が奪われましたが、地域の住民が協力して消火活動や人命救助を行った地域は、最小限の被害で済みました。やはり、町内会などによる自主的な防災活動を通じて、地域全体の防災意識を高めていくことが大切だと思います。

▼防災に関するお問合せ  
ご相談は、総務行革課  
☎42・1801まで